東日本大震災　学童保育の一日も早い復旧・復興を願って㉓

# 宮城県丸森町の学童保育からの報告

**安部信次**
宮城県丸森町　指導員

丸森町は宮城県の南の端にあり、福島県に入り込むように接しています。内陸部の中山間地域ですので、このたびの東日本大震災では、津波の被害はありませんでした。児童クラブに関しては、建物の被害もありませんでしたが、福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響を受けています。

現在、町には、公設公営の放課後児童クラブが四施設あります。二〇一〇年七月に一か所、二〇一一年四月に一か所、二〇一二年五月に二か所開設しました（このほかに、社会福祉協議会が指定管理者となっているところが一か所あります）。私は、子育てボランティアとしての手伝いの後、二〇一一年四月より、町の臨時職員として指導員をしています。

大震災の発生当時、町内の児童クラブは、中心部の小学校区には一か所でした。地震発生時刻は、開所時間を過ぎており、指導員は出勤していましたが、子どもはまだ下校前でした。地震が発生し、学校の先生の誘導のもと、避難して、保護者に渡されました。

児童クラブとしては、施設内にも下校途中という子どももいなかったため、指導員は学校に合流し、子どもが無事、保護者に渡されるのを確認した後、施設内を片づけました。その後、停電が続き、児童クラブは休みになりました。再開した後も、ガソリンや灯油の不足、おやつが手に入らないなどの困難がありました。



＊　＊　＊

二〇一一年四月、学校が再開されるのにあわせて、もう一つの小学校区で児童クラブが開設され、二〇一一年度は町内の公設公営の児童クラブは二か所になりました。

燃料や食料の流通が徐々に回復していくなか、原発事故による放射能汚染の影響が広がります。外遊びやプールの制限、登下校や外出時のマスク・帽子・長袖・長ズボンの着用。目に見えず、知識も情報も不足し、なにをどう考えればよいのかわからず、とらえ方や対処の違いから、人間関係・コミュニケーションに壁ができました。親も指導員も学校の先生も、大人たちが、言葉を選んで、あいまいな表現をしていました。私も、自分自身の考えが定まらず、自分に自信をなくしました。そんな大人の周りで、子どもたちはどんな影響を受けたのか……、申し訳ない気持ちがあります。

二〇一二年、保育所や小学校の校庭の除染作業が行われ、空間線量も下がったため、外遊びやプールは、ほぼ事故前のように行われるようになりました。

＊　＊　＊

大震災から二年が経過し、二〇一三年三月一一日の発生時刻には、学校で黙とうが捧げられました。その後、児童クラブに登所してきた子どもたちを見た感じでは、目に見える形での被害の記憶が少ないぶん、震災後の精神的ストレスは少ないように思われます。

ただ、今後も続く、放射能汚染については、身体への影響が出ないことを祈りつつ、保護者をはじめ、大人が抱えるストレスからの間接的な影響を心配しています。今後、放射能の影響を受けている地域においては、子どもたちを守るためにも、その周辺の大人が放射能について正しく学ぶ場と、そのストレスを減らし、自信とおちつきを取りもどすための取り組みが必要です。

＊　＊　＊

丸森町に公設公営の学童保育ができてまだ三年です。私は、実家が神奈川県の横浜で、小学生のときに学童保育に通っていました。六年前（たまたまそのとき息子の通う保育所の親の会の会長をしていたので）、丸森町の子育て支援関係の委員にな

り、学童保育の開設の準備に関わりました。それ以来、今まで、会議のたびに、私自身の経験をもとに話をしています。少子高齢化率の高い町です。学童保育の存在を知らない人も多く、知っていても、学童保育とはなにか、わからない人も少なくありません。

小学生時代の放課後の時間の大切さ・貴重さ・可能性を考えると、ただ安全に時間を過ごすだけでは足りません。子どもたちが健全に発達し、成長するためには、子どもに寄りそう大人が必要なのだということを、地域の人たちに知ってもらいたいと思っています。

＊　＊　＊

二〇一三年一月、私は横浜学童保育研究集会に参加させていただきました。そのときに、分科会で保護者の方が、「小学生のうちは、信頼できる大人に見守られて成長できる」「（震災後）なにかあったら学童に行けと言っている」と発言されたのが、とても印象に残っています。

私が小学生のときに横浜で通っていたのは、親たちがつくって、運営している学童保育でした。地主さんから土地を借り、プレハブを建て、廃品回収やバザーをしながらの運営でした。今から三〇年以上も前、私が小学校低学年の頃のことですが、不思議とよくおぼえています。バザーのための裁縫や木工作業……、手がおぼえています。通信やチラシづくりに使ったガリ版印刷……、鼻がおぼえています。

私は、この十数年、子育て支援に関わるなかで、いつも、「子育ては、将来の親育てだ」と思っています。子ども時代の「楽しかったな」「幸せだったな」と感じた経験が、親になったときの、楽しく、幸せな子育てにつながるのだと思うのです。

私は、「子ども時代に、学童保育に通ってよかったな」と思っています。感謝しています。今度は私が、子どもたちが「学童保育に通ってよかったな」「この町で育ってよかったな」と感じてもらえるように、伝えていきたいと思っています。